

## ESRI統計より：国民経済計算

# 国際会議の現場から

## ～第47回国連統計委員会出張報告～

経済社会総合研究所国民経済計算部  
地域・特定勘定課課長補佐

**小林 秀子**

前・経済社会総合研究所国民経済計算部  
分配所得課政策調査員

**白神 光一**

### はじめに

本年3月に第47回国連統計委員会がニューヨーク国連本部にて開催された。本稿では、当該会合の概要として、国民経済計算に関するセッションに加え、特に議論の多かった「持続可能な開発のための2030アジェンダのためのデータ及び指標」に関するセッションの概要について報告する。



### 第47回国連統計委員会の概要

国連統計委員会は、経済社会理事会（ECOSOC、以下理事会という。）に設置された機能委員会であり、特定の専門分野の課題について審議し、勧告を行う機能を有する会議であり、国際基準の策定を含む国際的な

統計の諸活動についての最高意思決定機関である。同委員会は、理事会において選出される24か国<sup>1</sup>の代表によって構成され、我が国も現在委員国に選出されている。この委員国は地理的配分を考慮して選出され、その任期は4年となっている。同委員会の任務は、①各国の統計の開発及び比較可能性の改善の促進、②専門機関の統計事業の調整、③事務局の中核統計事務の改善、④統計情報の収集、分析及び普及に関する一般的課題について国連諸機関への助言、⑤統計及び統計手法全般の改善の促進等の事項に関して理事会を支援することとされている。毎年、理事会会合（6月又は7月）においてその結果報告を検討するため、統計委員会は、その8週間前に会合を開催することとなり、例年この時期に、4日間の日程で、国連統計部が事務局を務め、国際的な統計の改善や発展活動に係る国際機関等も出席して開催される。会議は、国際的な統計の改善等の各種議題について、国連統計部や関連する国際機関、協力国が作成した報告書をもとに議論が行われた後、各議題の最後には議長による総括を行うという運営形式となっている。

我が国は、1962年から1969年の間及び1973年以降、国連統計委員会の委員国として同委員会に出席しており、本会合には、総務省から6名、内閣府から2名、厚生労働省から1名の合計9名で構成された日本代表団として参加した。

今回の会合では、大きく分けて13の議論及び決定を行う事項と14の情報共有事項を各議題として、3月8日（火）から3月10日（木）の間に各議題の審議が行われ、3月11日（金）は今回委員会の総括が行われた。議論及び決定を行う事項については、今回の中心的な課題であった「持続可能な開発のための2030アジェンダのためのデータ及び指標」の審議を皮切りに、国民経済計算を含む個別統計の各議題が3日間に渡って行われた。また、会議の合間を縫って個別テーマに関するサイドイベントや関係国会合などが開催され、会期中は終日何らかの会合が常に開催されていた（表参照）。

1 2016年における国連統計委員会の委員国は、アフリカ諸国並びにアジア諸国、東欧諸国、ラテンアメリカ及びカリブ諸国、西欧及びその他諸国の5つの地理的配分を考慮して選出される。2016年の国連統計委員会における委員国は、トーゴ、ケニア、アンゴラ、カメルーン、リビア（アフリカ5か国）、日本、中国、韓国、カタール（アジア4か国）、ラトビア、ルーマニア、ブルガリア、ロシア連邦（東欧4か国）、キューバ、バルバドス、ブラジル、ドミニカ共和国（ラテンアメリカ・カリブ4か国）、ニュージーランド、ドイツ、イタリア、スウェーデン、オランダ、イギリス、アメリカ合衆国（西欧その他7か国）の24か国である。

## 国民経済計算のセッションの概要

本議題では、国民経済計算に関する事務局横断作業グループ（以下、ISWGNAという。）の報告が行われた。本報告では、2008SNAの分類、解釈、実際の導入に関する課題についての研究調査及び2008SNAのマニュアル、ハンドブックなどの編纂状況の共有、ISWGNA及び地域委員会の活動、国民経済計算のデータ報告及びメタデータ交換（SDMX）活動プロジェクトの進捗状況について説明があったところ、多くの国から、ISWGNAの取組みを評価・協働する旨の発言が寄せられた。特にマニュアル及びハンドブックの有効性を指摘する発言が多く出された。また、モロッコからは2008SNA導入に関し、好事例集などを全ての公用語で刊行して欲しいとの要望があり、ナイジェリアからは、国家行動計画に従って2008SNA移行を目指しているとの発言があった。ラオスからは、SNA推計手法の知識不足や基礎データ不測といった「ギャップ」が存在することから、能力構築について強い要望があった。

統計委員会の結論として、2008SNAおよび補助統計の導入支援を目的に、複数のマニュアル、ハンドブック、ガイドラインの完成を含むSNA導入課題におけるガイダンスの提供についてISWGNAに対し謝意を表すとともに、引き続きSNA導入課題に関する現実的なガイダンスを優先するよう要請した。また、2008SNA導入が進んでいる一方、古い基準年をいまだ多くの国で採用していることや最低基準のデータセットから見て捕捉範囲が狭いということに関して懸念を表明し、目的に適する基礎データの開発を加盟国に対して要望した。これらについては、国際機関および地域機関に対し、国民経済計算の作成を補助するため、統合された家計とビジネスに関する統計における資金・調整プログラムに留意するよう要請した。なお、国民経済計算における統計上の能力構築が継続して必要であること、SDMX技術の導入を認識することも強調された。

## 持続可能な開発のための2030アジェンダ<sup>2</sup>のためのデータ及び指標のセッションの概要

今回の統計委員会では、中心的な課題であり、第1番目の審議事項である「持続可能な開発のための2030アジェンダのためのデータ及び指標」に、当初2時間の審議時間が割り当てられていたのだが、大幅に超過してほぼ丸1日費やすこととなった。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（以下、2030アジェンダという。）では、グローバル指標<sup>3</sup>フレームワークはSDG指標に関する機関間専門家グループ<sup>4</sup>（以下、IAEG-SDGsという。）によって開発され、2016年3月までに（国連）統計委員会によって承認され、その後、理事会及び総会で採択されることに言及している。同指標については、専門的な見地からの検討が必要として、国連統計委員会の作業に委ねられたことから、本議題では、上記のIAEG-SDGsをはじめとした2つの作業グループから報告書が提出され、統計委員会では同報告の承認及びコメントが求められた。

うちIAEG-SDGs報告書には、IAEG-SDGsによって開発された持続可能な開発アジェンダの達成度を策定する一連のグローバル指標案が提示されたところであるが、指標案の数は241指標案（重複を除くと230）であり、その中には未だデータの入手が困難であり計測できないもの、定義が不明であるものがあるなど、数多くの問題が残されているものが含まれていた。

IAEG-SDGsは、今後の作業プログラムとして、残された問題について、引き続き議論を続けていくものとされ、統計委員会は、グローバル指標案を、今後技術的に修正されるものの、議論の出発点として承認した。2030アジェンダをモニタリングするための指標には統計調査によるデータのみならず、例えば海洋ゴミや海洋酸性化といった海洋汚染に関する観測データや行政データ等あらゆるデータが必要とされており、全政府的な取組が必要とされている。

2 2015年9月25日の「持続可能な開発サミット」で、国連加盟国は、「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）（以下、MDGsという。）」が2015年に期限を迎えるのを受け、開発目標の後継の枠組みとして「2030アジェンダ」を採択した。2030アジェンダは、貧困に終符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処することをねらいとする人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げたものであり、この目標が、MDGsの後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」である。

3 アジェンダの達成度を策定する指標。

4 昨年の第46回国連統計委員会決議に従い、同指標開発等のために設立された2つの作業グループの一つ。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のゴールやターゲットのグローバル指標フレームワークの開発作業及びモニタリングの実施について議論する「IAEG-SDGs」の他に、モニタリングの実施のためのパートナーシップ、調整、能力構築等について議論する「ポスト2015モニタリングのためのパートナーシップ、調整及び能力構築のためのハイレベルグループ（HLG）」が存在。

表 第47回国連統計委員会日程

日にち	時刻	議題
3月8日	10:30	1. 役員を選出
		2. 議題採択及びその他組織上の事項
		3. 議論及び決定事項
	13:00	(a) 持続可能な開発のための2030アジェンダのためのデータ及び指標
		(b) 公的統計を変革する事項
	15:00	(c) 公的統計のためのビッグデータ
18:00		(d) 国民経済計算
3月9日	10:00	(e) 環境経済勘定
		(f) 国際比較プログラム
	13:00	(g) 国際統計分類
	15:00	(h) 工業統計
		(i) 情報通信技術統計
		(j) 難民統計
10:00		(k) 気候変動統計
3月10日	10:00	(l) ガバナンス統計
		13:00
	15:00	4. 情報項目
		(a) 世界統計の日
		(b) 人口統計
		(c) ジェンダー統計
		(d) 世帯統計
		(e) 障がい統計
		(f) 国際貿易及び経済グローバル化統計
		(g) 統計プログラムの調整
		(h) 統計能力構築
		(i) 環境統計
		(j) 文化統計
		(k) 物価統計
		(l) 天然資源に基づく経済統計
		(m) 統計及び地理空間情報の統合
(n) 総会及び経済社会理事会の政策決定に対するフォローアップ		
18:00		
3月11日	10:00	5. 事業に関する質疑(国連統計部)
		6. 第48回会合の仮議題及び日程
	13:00	7. 第47回会合に関する委員会報告

※実際は各国の意見表明などが長引き、各項目は後ろ倒しされながら進行された(会議自体は10日中に終了)。  
(出所) 第47回国連統計委員会資料より作成

## 結び

国民経済計算をはじめ、各議題において提出される報告書や各国からの意見表明に接し、効果的な政策策定のためには、経験則的な政策議論のみならず、エビデンス(数値的データ)とその分析に基づいた適切な判断が不可欠であるという考え方が様々な分野で主流になりつつあり、統計作成業務がますます注目を浴びるようになってきていることを肌身で感じる事ができた。

このような国際会議の場に参加し、最新の情報を共有するとともに、世界的な潮流に触れることは、我が国の統計作成部局としても非常に有益であり、今後も積極的に参加していくことが重要であろう。

小林 秀子(こばやし ひでこ)  
白神 光一(しらがみ こういち)

